

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスせれくと		
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		~ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		~ 2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	リトミックなどのリズム療育に積極的に取り組んでいる。	音楽を通じて、利用者の感性や表現力を育む。また、リズム感や社会性、集中力の向上に繋げている。利用者は低学年が中心のため、遊び感覚で楽しく学べることができる。	専門家の助言や音に敏感な利用者への配慮などを行い、利用者同士のコミュニケーション能力向上や、協調性の向上を目指す。
2	戸外活動が多く、自然に触れ合う機会が多い。	学休日や長期休みなどがメインではあるが、公園・各種イベント・お芋掘りなど自然に触れ合う活動に積極的に取り組む。利用者がのびのびと活動できるよう支援を行っている。	利用者に怪我などが無いよう、職員間での役割分担や事前の危険予知活動などを行い最善の注意を払う。また、外遊びが苦手な利用者に対する配慮も行う。
3	保育士を多く配置しているため、低学年の利用者に手厚い支援を行える。	基本的な生活習慣の取得や宿題の習慣を身に付け、安心して福祉施設を利用できる環境づくりに力を入れている。	療育の固定化がないよう、職員間のコミュニケーション力強化。利用者一人一人の特性、趣向を意識し、楽しく活動に参加できるプログラムにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	余暇活動スペースの確保。	建物の構造上、十分なスペースを確保することが困難。	建物内での活動には制限があるため、外での遊びや地域資源を活用して利用者がのびのびと活動できるよう対応していく。
2	玄関先の道路交通量が多い。	飛び出した利用者がいた場合には、事故が懸念される。	玄関口の施錠、送迎乗降時は職員補助の徹底を行うなどの対応を行う。お迎え時などはチャイムを鳴らしてもらい、職員が鍵の施錠を行う。
3	職員の専門性の強化。	研修等は実施しているものの、職員個人の専門性理解にばらつきがみられる。	職員一人一人のニーズに応じた研修会の実施を行い、職員間でのコミュニケーション力の強化。ロールプレイなどを多く取り入れ、チームで事例検討を行い、都度助言をする。